【様式①】令和4年度　学校評価書（小・中・特別支援）

学校名　　芥見小学校

校長名　　山下　敦子

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	・職員間の良質な情報交換と異なる視点からの交流を活性化させ、学び合って指導力を高める。 ・定期アンケート、あのねポスト、教育相談等から、情報を拾い上げ、全職員による情報交流、素早い対応を確実に行い、見届けきる。	A	・保護者アンケートの「学校へ楽しく行っている」では、あてはまる、だいたいあてはまるが約95％であった。いじめ事案等、日頃から即相談、即対応を心がけ、職員の共通理解を図り安心して生活できるよう取り組んだ。 ・「確かな学力を身に付けようとしている」では、92％であった。授業や行事などを工夫して行うことで、指導力の向上を図ってきた。	・いじめ対応には、学校・保護者間の連携をとり、相談しやすい。 ・学校と地域団体との関係は良好で、意見交流もしやすく改善につながっている。 ・挨拶を大切にし、地域の大人からも子どもに声をかけ、いつでも地域全体、世代を超えたコミュニケーションができるようにしたい。	・今後もいじめ対応には、時間をかけて丁寧な対応を行う。 ・コロナ禍で行事が中止になって子どもたちが地域と関わることが少なくなっていたが、様々な行事が少しずつ実施できるようになり、地域とつながって学習できることをやり方を工夫しながら進めていく。 ・キャリア教育を進めるうえで、地域の人材をさらに掘り起こしていく。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	・「話す・聞く」を中心に、基本的な学習姿勢の徹底を図る。朝の帯活動を充実させ、徹底反復学習を行い、基礎学力の定着を図る。 ・デジタル教科書、タブレット端末の活用の幅を広げ、児童の学びを深める。スタディ・サプリを家庭学習に生かす。	A	・保護者アンケートの結果から、「確かな学力を身に付けようとしている」の質問に、あてはまる、だいたいあてはまるが約93％であった。基礎学力の確実な定着を目指して、朝の活動を中心とした反復練習が定着した。対話的な学びを通して互いの考えを交流して考えを深めたり、タブレット端末を利用して自分の考えを伝えようとする姿も増えつつある。授業支援ソフトなど職員がやり方を共有して、より充実したものに工夫しつつある。 ・英語教育においては、1年生から6年生までのカリキュラムを見直し、英語が楽しいと思える授業作りに力を入れた。	・落ち着いた態度で授業に臨めている。授業や作品から、子ども達の心の声を感じ、1年生から6年生の成長を見ることができた。 ・授業で十分理解できていないこともあるので、間違った問題を再度理解できるようにさらに指導をしてもらいたい。 ・タブレットの活用が全学年でなされている。これからも、デジタル機器を使いこなす学習は重要である。また、ノートなど文字を丁寧に書くことは大切であることは教えてほしい。 ・英語の授業では、子どもたちがALTの先生と楽しそうに会話をしていて、日頃から英語を話すことに抵抗感がないのだと感じた。	・ICT活用をより活発に実践し、授業が「わかる」「楽しい」がさらに100％に近づき、学びが深まるように工夫していく。これからの社会をたくましく生きていくための必要な力をつけるために、さらなる授業改善を行っていく。 ・タブレットの活用は、個人の能力に配慮しながら進めていく。 ・授業以外の活動でも、子ども達が自分たちで創意工夫し、進んで取り組める活動を価値づけていく。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	・幼保小の連携、小中の連携を深めることにより、児童理解をより深め、一人ひとりのニーズに応じた支援をする。 ・土曜日等の教育活動では、地域と協力して充実した活動を行う。	B	・藍川中学校区で話合い活動を大切にした授業づくりを大切にすることができた。 ・児童生徒の様子について情報の共有を行い、指導に生かすことができた。 ・検定（漢字、英語、算数）をコロナウイルス感染防止を徹底し、中学校と連携して進めることができた。また、土曜寺子屋を小学生（高学年）まで広げて呼びかけをしていただけた。	・きめ細やかな連携を小中で今後も続けていけるとよい。 ・幼保から小学校へ、小学校から中学校へと環境が変わることで適応しづらい子がいると聞くので、それぞれの交流を多くして、環境になれておくようにするとよい。	・小学校や中学校生活がスムーズにスタートできるよう、さらなる連携を図っていく。幼保小連絡協議会や小学校と中学校の授業交流などは、積極的に行っていく。
教育環境と学校財務環境の整備	・効果的な教育を目指して、月一回の安全点検のほかに、日頃の点検の充実を図り、設備・備品等の再利用や修繕を進めて教育環境を整備する。	A	・地域からゲストティーチャーを招いての活動が少しずつ増え、子どもたちの学習が充実した。 ・月1回の安全点検を確実に行い、不備があると校務員がすぐ修理を行ったり、施設課に要望を出したりした。	・スマート連絡帳を活用した体調管理、家庭への通信配付に変わってきた。 ・施設が清潔に整えられている。どの児童も教材・備品が均等に使用でき、教育が受けられる環境づくりができている。	・常に安全に生活できる環境づくりに心がけ、月1回の安全点検と、速やかな対処を続けていく。 ・児童が十分活動できるように、見通しをもった計画をし、備品等を準備できるようにする。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・登下校及び校内の安全教育を適切に進める。特に、コロナウイルスなどの感染症予防については徹底を図っていく。また、命を守る訓練と、学年に応じた防災教育により、自助・共助・公助の理解を図る。	A	・見守り隊が結成され、日々子どもの安全を見守っていただけた。交通安全教室などでも協力を得て行った。 ・「命を守る訓練」を様々な状況を想定し、自分の命は自分で守ることを繰り返し指導した。 ・地域の防災訓練に親子で参加した（土曜授業）。	・コロナ予防対策がしっかりなされている。 ・多様な災害が起こる中、急場の対応力がつくように予告なし訓練を実施しているのはよい。今後、地域の大人・家族とDIGを定期的に行うとよい。	・子どもの命に関わることは、地域、保護者と協力しながら今後も健康と安全を最優先していく。 ・防災訓練については、地域や関係団体と連携を取りながら今後も継続していく。 ・通学路の危険個所などの見直しを地域の方とも協力し合って進める。